

EPSON
EXCEED YOUR VISION

70th
ANNIVERSARY

2012年度(2013年3月期) 第1四半期 決算説明会

2012年 7月31日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（第1四半期決算）



(億円)	2011年度		2012年度		増減	
	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,177	-	1,863	-	-313	-14.4%
営業利益	36	1.7%	△161	-8.6%	-197	-
経常利益	23	1.1%	△164	-8.8%	-188	-
税引前利益	5	0.2%	△319	-17.1%	-324	-
四半期純利益	△32	-1.5%	△344	-18.5%	-312	-
EPS	△16.13円		△192.67円			
換算 レート	USD	81.74円	80.20円			
	EUR	117.40円	102.91円			

■ 2012年度 第1四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 313億円減収の 1,863億円、
営業利益は 161億円の損失、
四半期純利益は 344億円の損失。

第1四半期決算の総括 (社内計画対比)



計画前提

- 前年同期比でユーロ安、IJP本体生産数量大幅増などから四半期営業赤字を前提

事業環境

- 欧米市場は想定以上に回復感に乏しく、新興国市場も成長鈍化が顕在化

売上高

- IJP、PRJ、POS関連製品の販売未達
⇒ 一方で、IJP本体(対前年+15%)、PRJ(対前年+20%)と、市場環境が厳しい中でも着実に数量成長を実現

営業利益

- IJP本体の先行生産影響
- IJP消耗品販売未達影響
- 原材料高騰などによるコストダウン未達影響
- タイ洪水にともなう調達先変更

四半期純利益

- 和解金の支払いによる訴訟の解決に伴う特別損失の計上

※ IJP : Inkjet printer
POS : Point of sales
PRJ : Projector

■ 第1四半期決算の総括

前提の見直し

- 情報関連機器各事業を中心に市場前提を見直し、全社の期初業績予想を下方修正
⇒ 市場自体の弱さを勘案し軌道修正する
⇒ オペレーションの範囲で挽回する

対応施策

- 情報関連機器は、期初の計画数量は追わず販売数量目標を引き下げ、生産・在庫計画を見直し、着実に損益をコントロール
- 下期に向けた、IJP、LFP、PRJの強力な新製品の着実な投入
- PRJ、SIDM、POS関連製品の入札案件の確実な取り込み
- 計画に沿ったコストダウンの達成
- 費用の精査と効率的な執行

※ IJP : Inkjet printer
LFP : Large format printer
SIDM : Serial impact dot matrix printer
POS : Point of sales
PRJ : Projector

■ 第2四半期以降の対応

2012年度業績予想



(億円)	2011年度		2012年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	4/27予想		今回予想		前期実績比	4/27予想比
				%		%		
売上高	8,779	-	8,900	-	8,700	-	-79 -0.9%	-200 -2.2%
営業利益	246	2.8%	350	3.9%	280	3.2%	+33 +13.7%	-70 -20.0%
経常利益	270	3.1%	330	3.7%	280	3.2%	+9 +3.6%	-50 -15.2%
税引前利益	156	1.8%	230	2.6%	130	1.5%	-26 -16.8%	-100 -43.5%
当期純利益	50	0.6%	140	1.6%	50	0.6%	-0 -0.6%	-90 -64.3%
EPS	26.22 円		78.26 円		27.95 円			
換 算 レ ー ト	USD	79.08 円	75.00 円		76.00 円		今回予想 2Q以降の予想前提レート USD: 75.00円 EUR: 100.00円	
	EUR	108.98 円	100.00 円		101.00 円			

■ 2012年度の業績予想

- 以上を踏まえて、2012年度の業績予想を修正。
- 売上高は、前回予想を200億円下回る8,700億円、
営業利益は、70億円下回る280億円、
当期純利益は、90億円下回る50億円に修正。

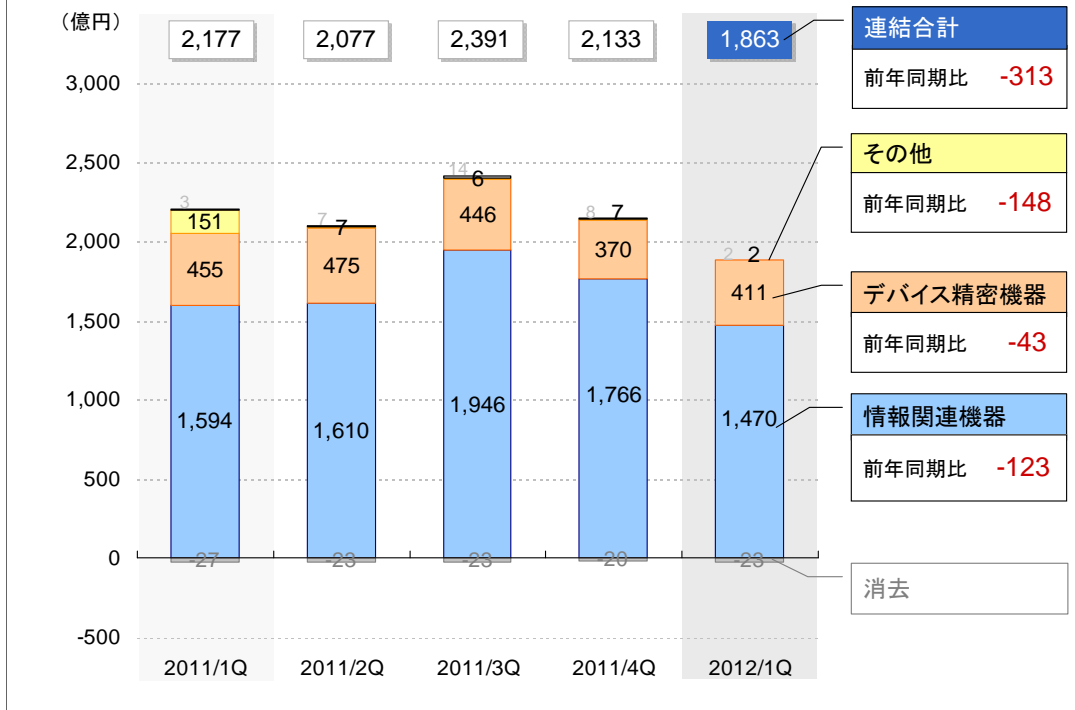
1. 概要

2. 詳細

1) 2012年度 第1四半期決算

2) 2012年度 業績予想

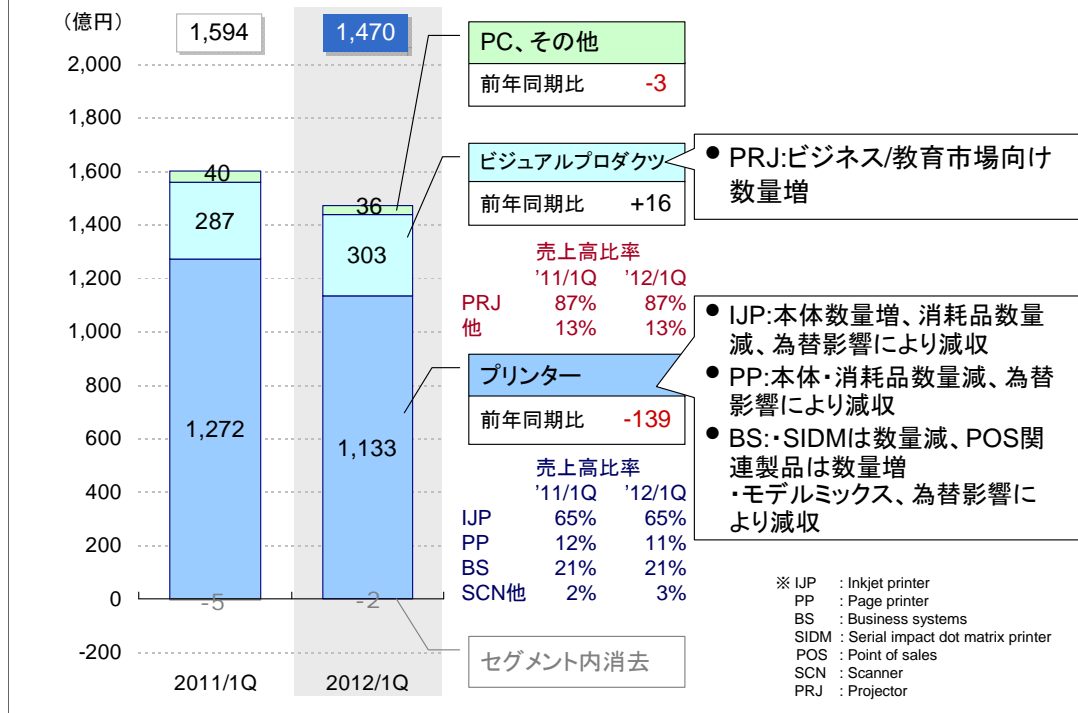
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比123億円の減収、デバイス精密機器セグメントは、前年同期比43億円の減収。
- その他セグメントの減収は、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結によるもの。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、約72億円のマイナス影響。

四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



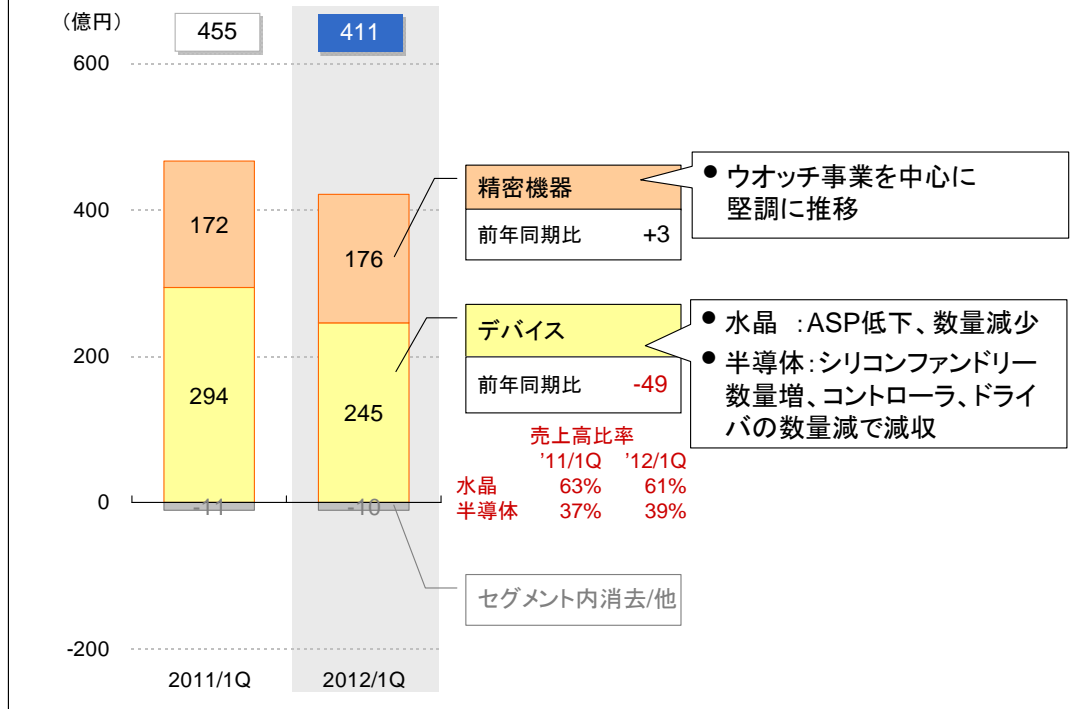
■ 情報関連機器事業セグメントの第1四半期 売上高

- 当セグメントでは全ての事業が、円高による影響を受けた。
- プリンター事業は、139億円の減収。
- インクジェットプリンターは、本体は数量増となったものの、消耗品が本体稼働台数が十分回復していないことに加え、前期末の拡販の影響により数量減となったこと、およびユーロ安による為替影響により減収。
本体の地域別状況については、欧米市場が前年割れとなる中、当社は米州、欧州、アジア地域において数量増。
- ページプリンターは、案件の時期ずれや減少などによる影響から本体、消耗品数量の減少により、減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが、中国向けの徴税需要がピークを迎えていた前年に比べ数量減となったこと、またPOS関連製品が、米国、アジアの小売店舗向けに数量増となったものの、普及価格帯製品の販売が中心となったことに加え、為替影響もあり、減収。
- ビジュアルプロダクツは、プロジェクターが中国やアジア、欧州市場をはじめ全地域でビジネス・教育市場向けに数量増となり、前年同期比16億円の増収。

■ 社内計画との比較について

- インクジェットプリンターの売上高は、本体が数量未達となったこと、消耗品が前期末拡販の反動と本体販売数量未達の影響を受けたことから、予想を下回った。
- ビジネスシステムは、SIDMは中国の徴税需要を中心に概ね予想どおりだったものの、POS関連製品の欧米市場における景気後退や案件の時期ずれなどの影響により予想を下回った。
- ページプリンターは、景気後退や案件の時期ずれなどにより、またビジュアルプロダクツは、プロジェクターが米州における大型案件の先送りや、中国におけるチャネル在庫増加の影響を受けたことにより、予想を下回った。

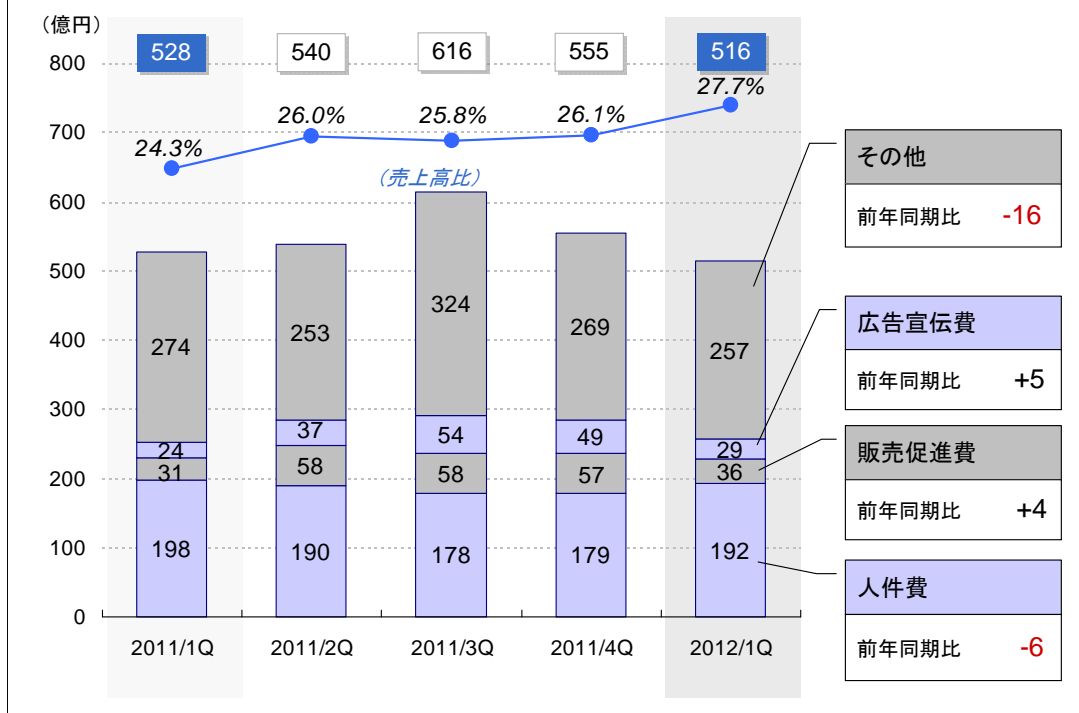
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの前年同期比較

- デバイスは、水晶デバイスが、ASPの低下 ならびに景気低迷による需要の減少により、また半導体が、シリコンファクトリーが増となったものの、コントローラやドライバの数量減により、減収。
- 精密機器は、ウォッチ事業を中心に堅調に推移し、前年並み。
- 社内計画との比較では、デバイス、精密機器ともに、ほぼ予想どおり。

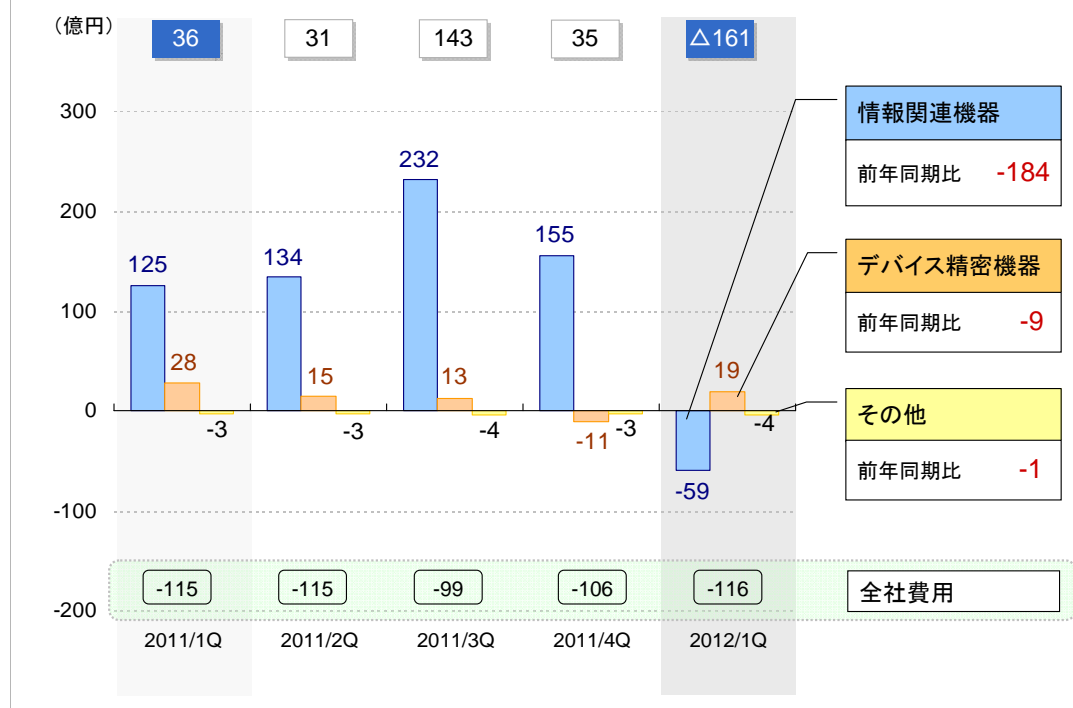
四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 広告宣伝費、ならびに販売促進費は震災の影響により費用支出を抑えた前年同期と比べ若干増加したが、全体的に費用の効率的な執行に努めたことにより、前年同期を下回る金額となった。

四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



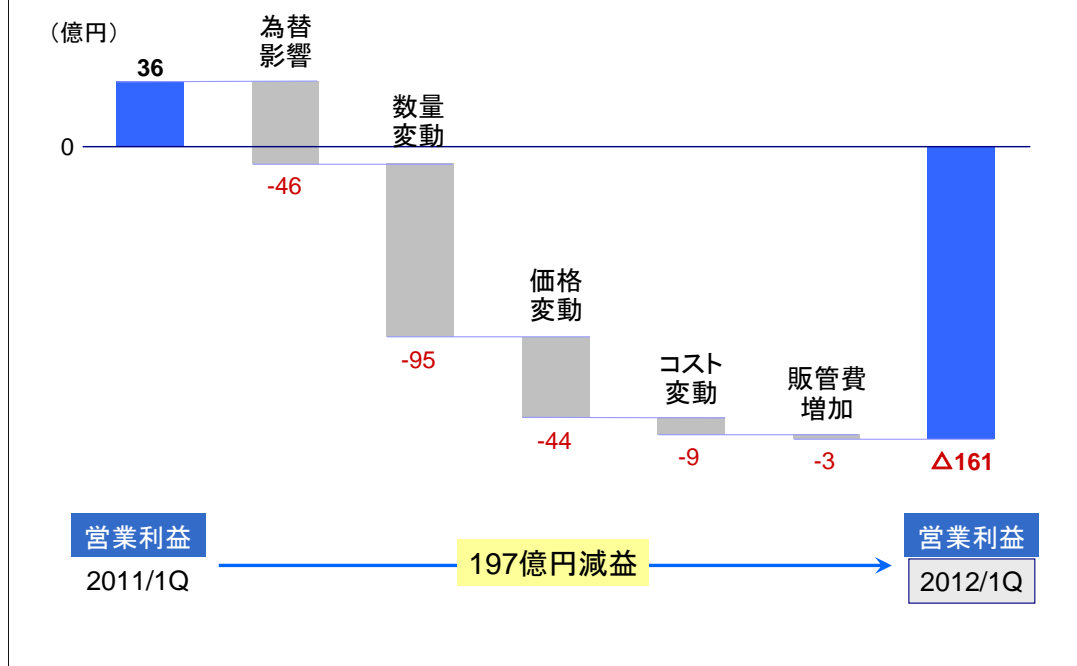
■ 事業セグメント別の四半期営業利益推移

- 全社として、為替により約46億円のマイナス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比184億円減益の59億円の損失。
- インクジェットプリンターは、消耗品の減収に加え、震災の影響を受けた前年に比べ大幅に本体の生産数量が増加していることによる費用増により、減益。
- ビジネスシステム、ならびにページプリンターは、減収により減益。
- ビジュアルプロダクツは、増収となったものの、プロジェクターの新興国を中心としたエントリーモデルの販売増加によるASPの低下に加え、売上拡大に伴うコストの増加や、生産能力増強に伴う固定費増加などにより減益。
- デバイス精密機器は、精密機器が前年並みとなったが、デバイスが、水晶と半導体ともに減収となったことにより、前年同期比9億円減益の19億円。

■ 社内計画との比較について

- 情報関連機器は、社内計画を下回った。
- インクジェットプリンターにおいて、消耗品の売上未達に加え、第2四半期以降のスムーズな新製品の生産立ち上げを実現するために現流製品の先行生産を行ったことによる生産数量増や原材料の高騰や、タイ洪水にともなう調達先変更などによるコストダウン未達などにより、計画を下回った。
- ビジネスシステムは、POS関連製品の売上未達により、計画を下回った。
- ページプリンターは、売上未達、ビジュアルプロダクツは、プロジェクターの販売未達により計画を下回った。
- デバイス精密機器は、デバイスはほぼ想定どおりだったものの、精密機器において、固定費の抑制効果もあり計画を上回った。

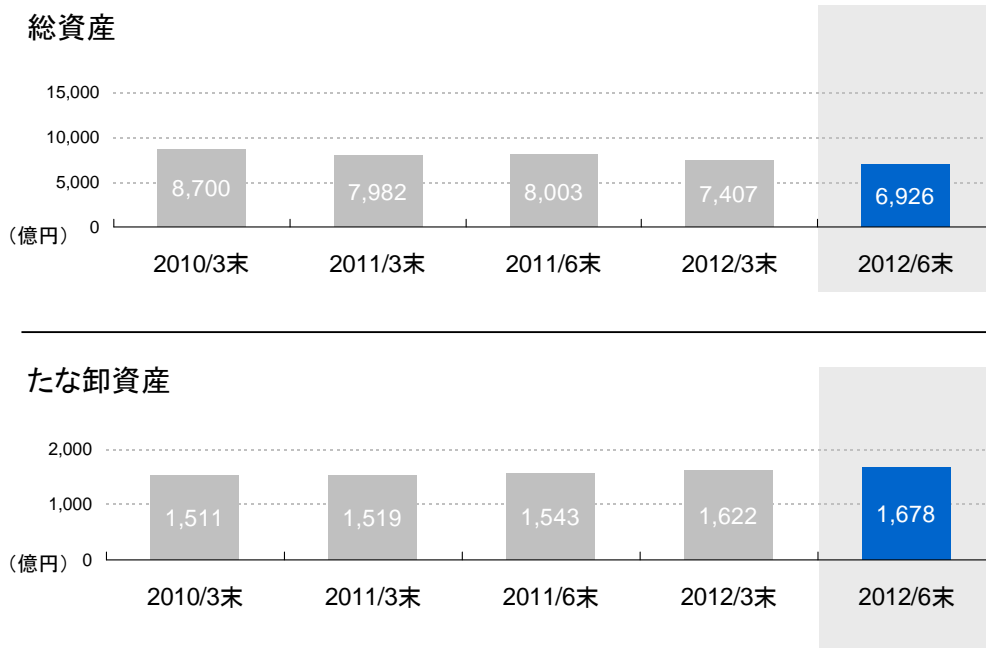
営業利益増減要因分析



■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2011年度 第1四半期の営業利益36億円に対し、数量変動、為替影響、価格変動の減益要因により、四半期営業損失は161億円。

貸借対照表主要項目推移



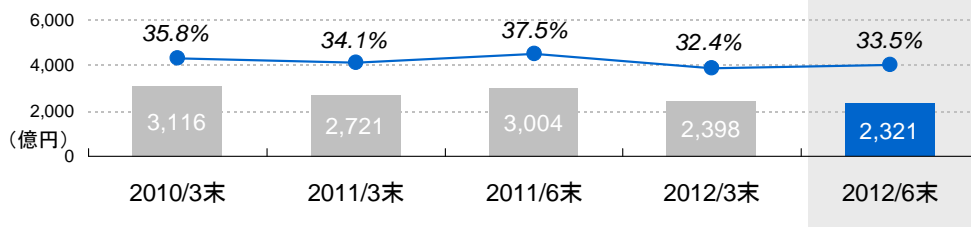
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、たな卸資産は売上未達の影響により増加したものの、手元資金の減少や、受取手形及び売掛金の減少などにより、前期末に比べ481億円減少。

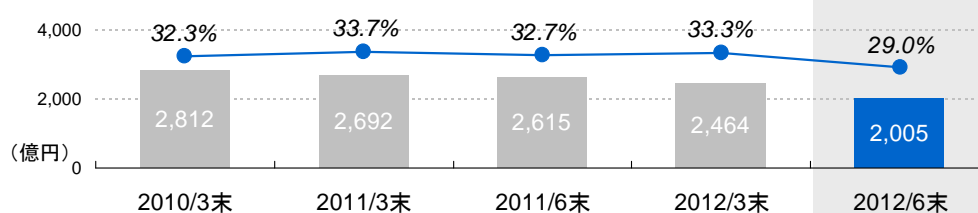
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

■ 貸借対照表の主要科目

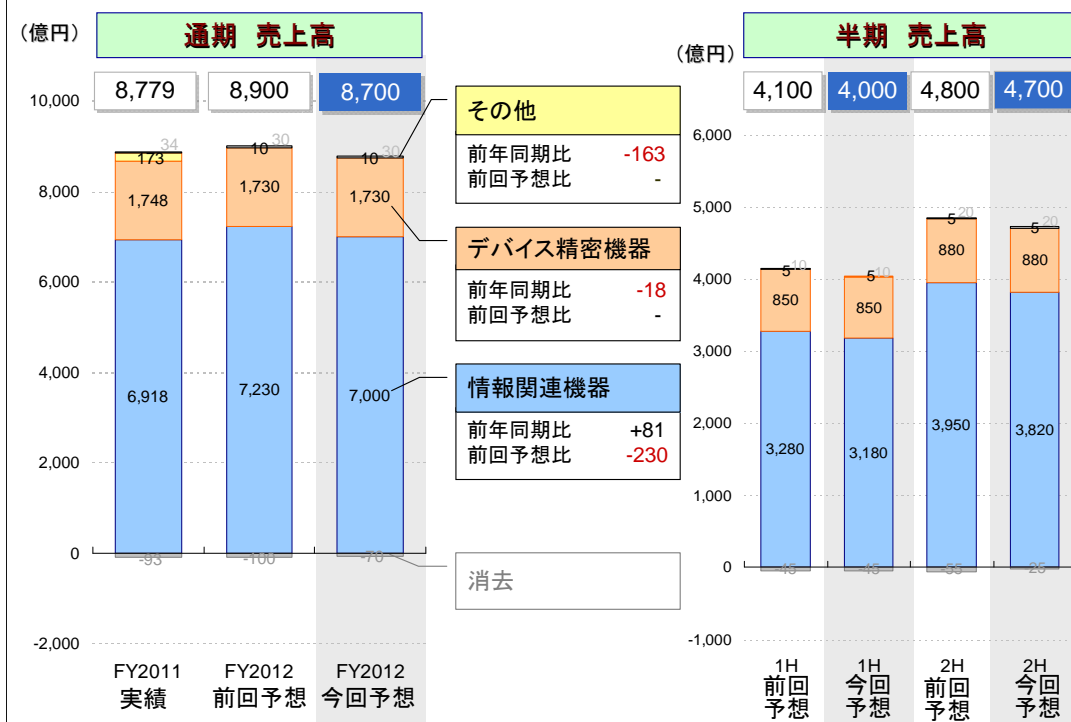
- 有利子負債は、借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて76億円減少し、総資産の有利子負債依存度は33.5%。
ネット有利子負債は、1,177億円。
- 自己資本は、第1四半期の業績および為替換算の影響などにより、前期末に比べ458億円減少し、その結果、自己資本比率は29.0%。

1) 2012年度 第1四半期決算

2) 2012年度 業績予想

■ 2012年度の業績予想

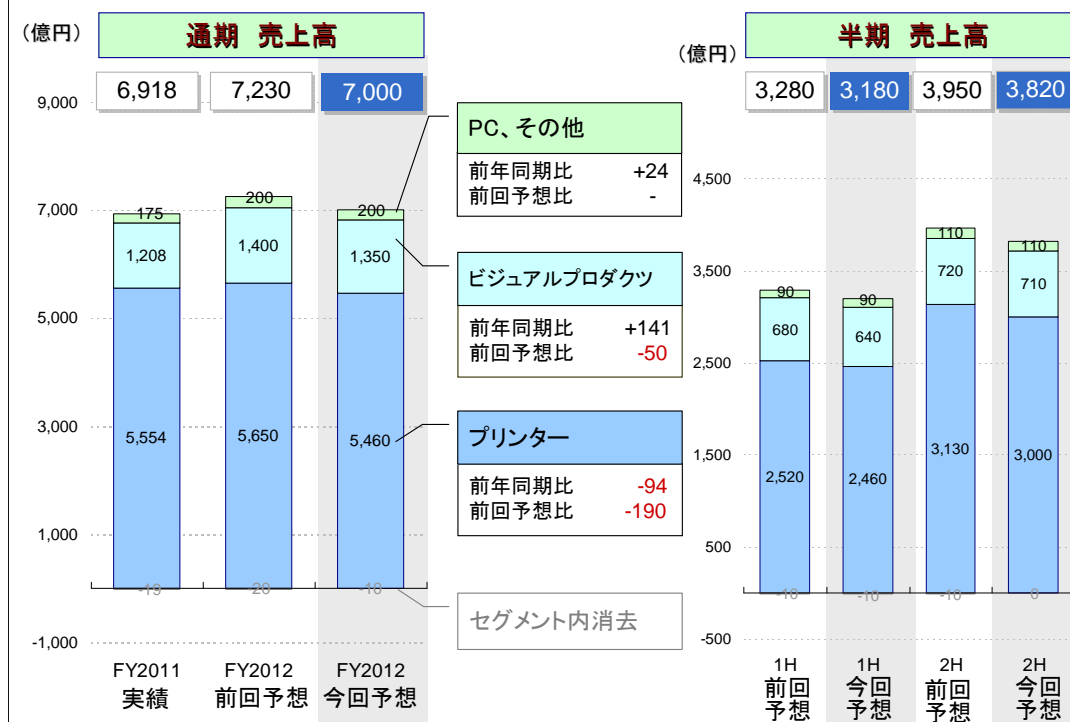
2012年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2012年度の事業セグメント別売上高予想、上期 / 下期別の内訳

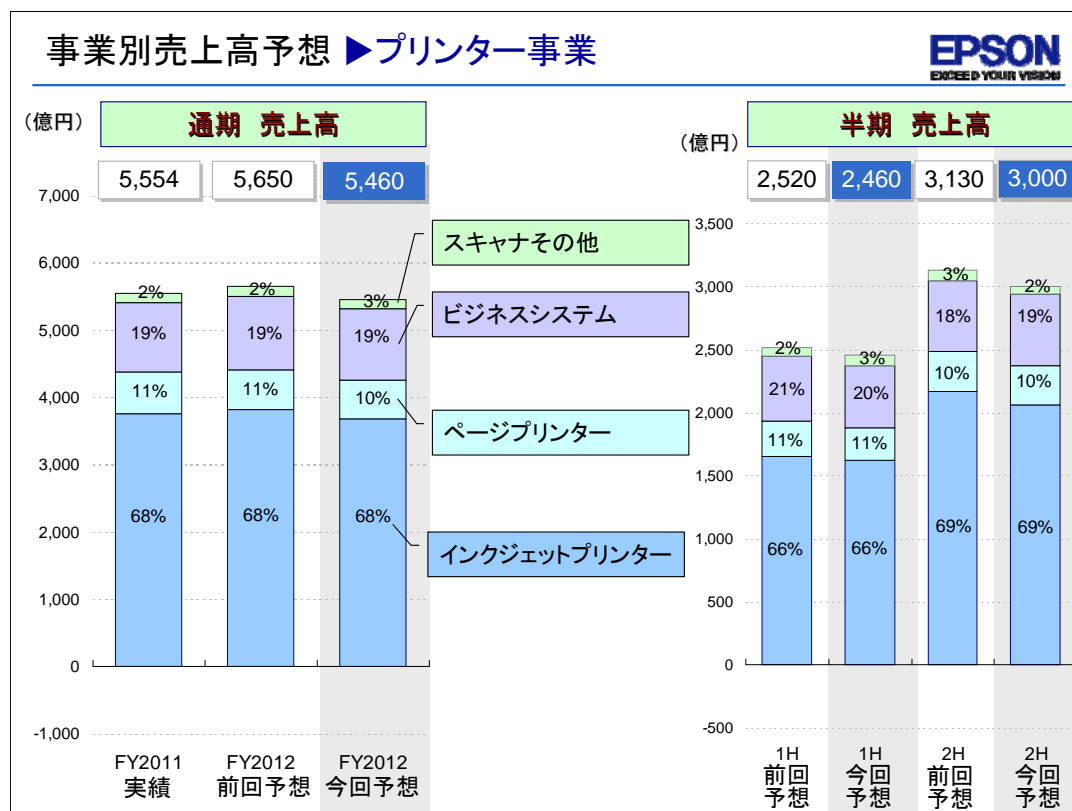
- 情報関連機器は、上期 / 下期の予想を修正。

事業別売上高予想 ▶情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

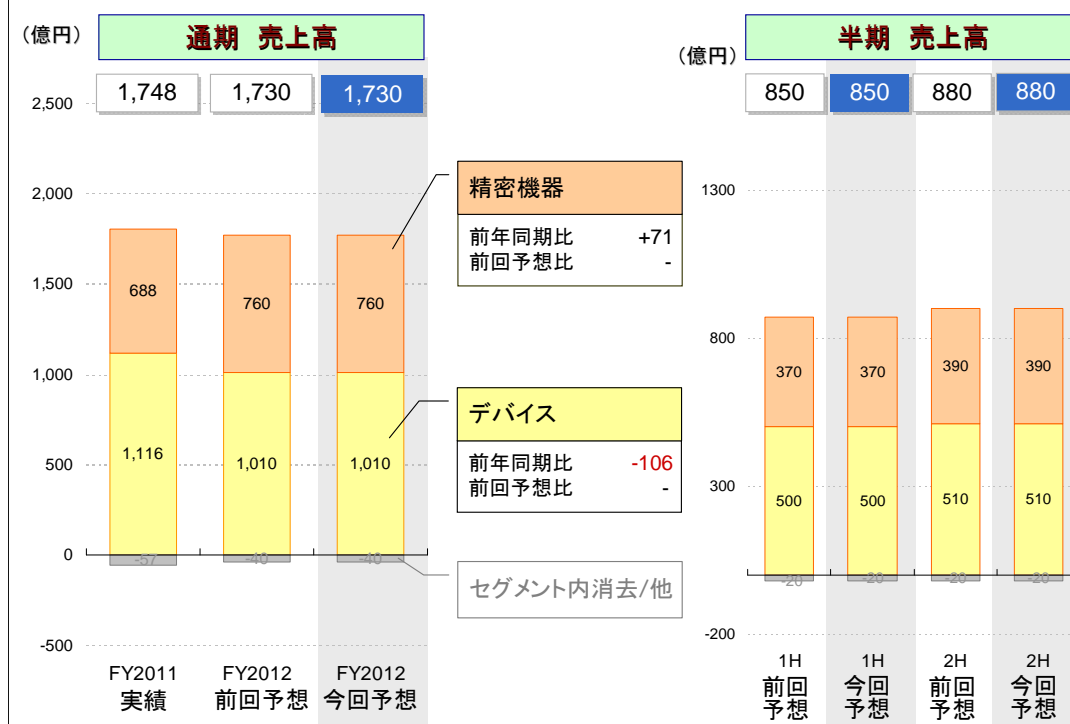
- ビジュアルプロダクツ事業は、前回予想から下方修正するものの、第2四半期以降、案件の確実な取り込みと同時に、短焦点など当社が強みを持つ競争力の高い戦略製品を中心に拡販することで、市場成長を上まわる20%以上の数量成長を目指す。



■ プリンター事業の製品別売上高予想

- プリンター事業は、前回予想を190億円下回る5,460億円を予想。
- インクジェットプリンターは、欧米を中心とした市場の回復感の遅れから、2011年度の本体販売1,460万台の実績に対して、5%程度の数量増に下方修正するが、基本戦略については変更なし。
- 前年に投入した小型化モデルをプラットフォームとし、ホームおよびオフィス領域向けの製品ラインナップを大幅に刷新するとともに、今年度新たに新規の小型化プラットフォームを投入して全面的に競争力を強化することにより、本体数量増による消耗品の売上拡大をはかると同時に、コストダウンを進める。
- また、ラージフォーマットプリンターにおいても、今年度から新たに投入するサイネージやCAD分野向けの新製品は共通のプラットフォームを採用したことにより、大幅にコスト競争力を向上させており、消耗品の売上拡大とあわせ、下期以降の損益への貢献を予定。
- ページプリンターは、競争力の高い製品を投入。
- ビジネスシステムは、POS関連製品の米州における案件需要の取り込みや、SIDMIにおける中国の4～6級都市での認定店拡大によるディーラー網整備を進めるものの、欧州における投資抑制影響を受け、下方修正。

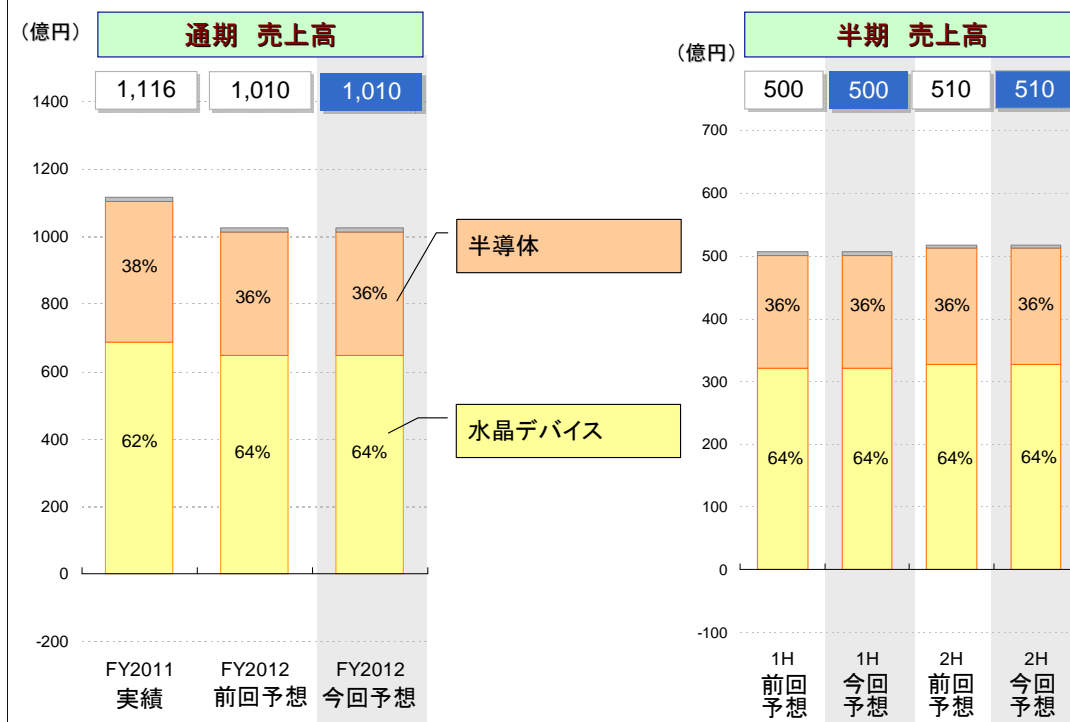
事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

- デバイス事業、精密機器事業ともに、前回予想から変更なし。
- 精密機器事業は、ウォッチにおいて、ムーブメントに減速感はあるものの、ソーラー電波時計などが堅調に推移することから、前回予想どおりを見込む。

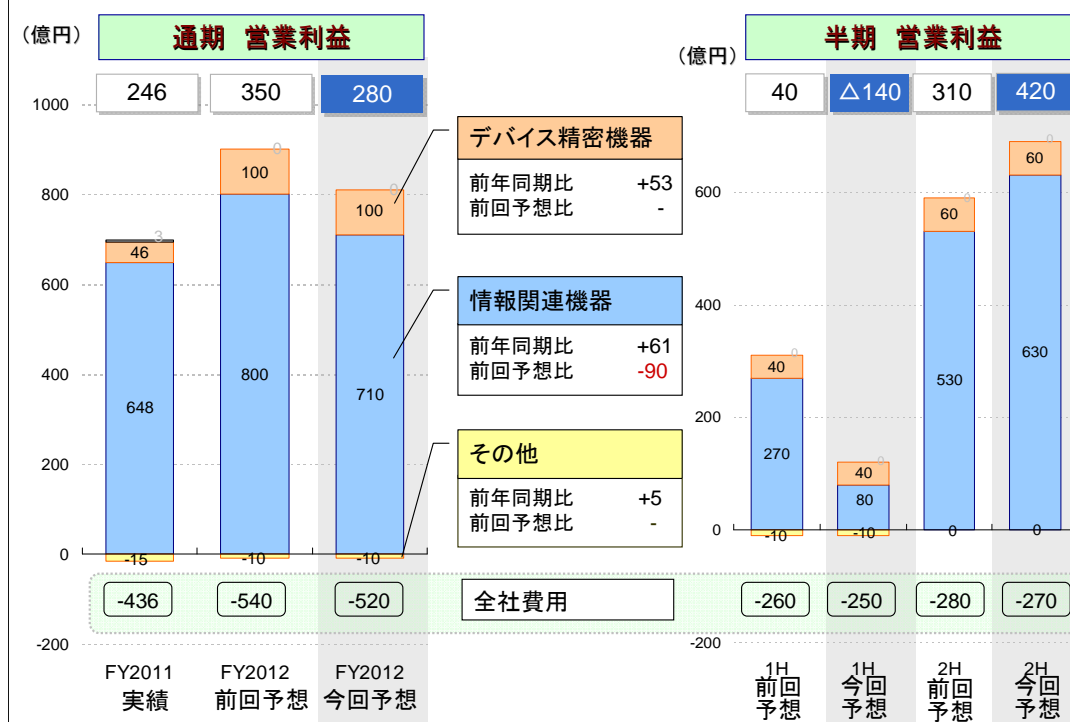
事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



■ デバイス事業の製品別売上高予想

- 水晶デバイス、半導体ともに、欧米を中心として景気先行き不透明感はあるものの、需要を確実に取り込んでいくことにより、前回予想から変更なし。

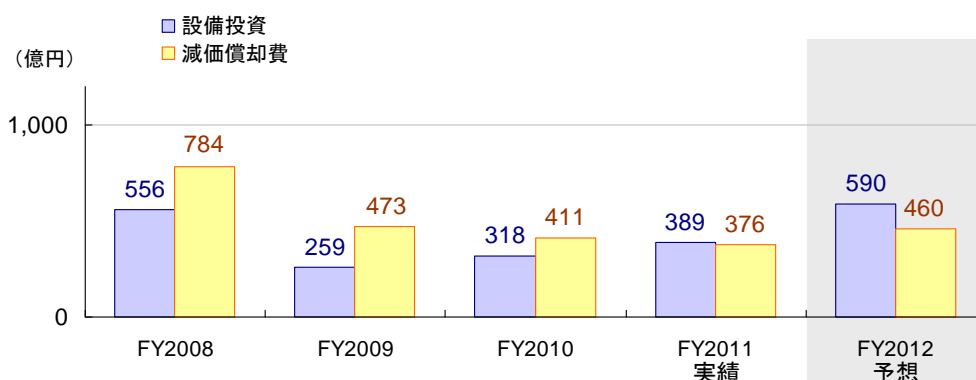
2012年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、上期については、第1四半期の出遅れもあることから下方修正、下期においては、上方修正。
- インクジェットプリンターは、本体販売数量の見直しに伴い、生産・在庫計画の見直しもすることで、下期に向け適切に損益をコントロールする。
あわせて、本体価格維持や新製品投入によるモデルミックスの改善の効果を見込む。
- またビジネスシステム、ビジュアルプロダクツにおいては減収となるものの、モデルミックス改善効果や固定費削減効果を織り込む。
- デバイス精密機器は、水晶、半導体のマイクロデバイス事業において、固定費削減や変動費改善などの諸施策が効果として表れていることから、前回予想から変更なし。

設備投資・減価償却費予想

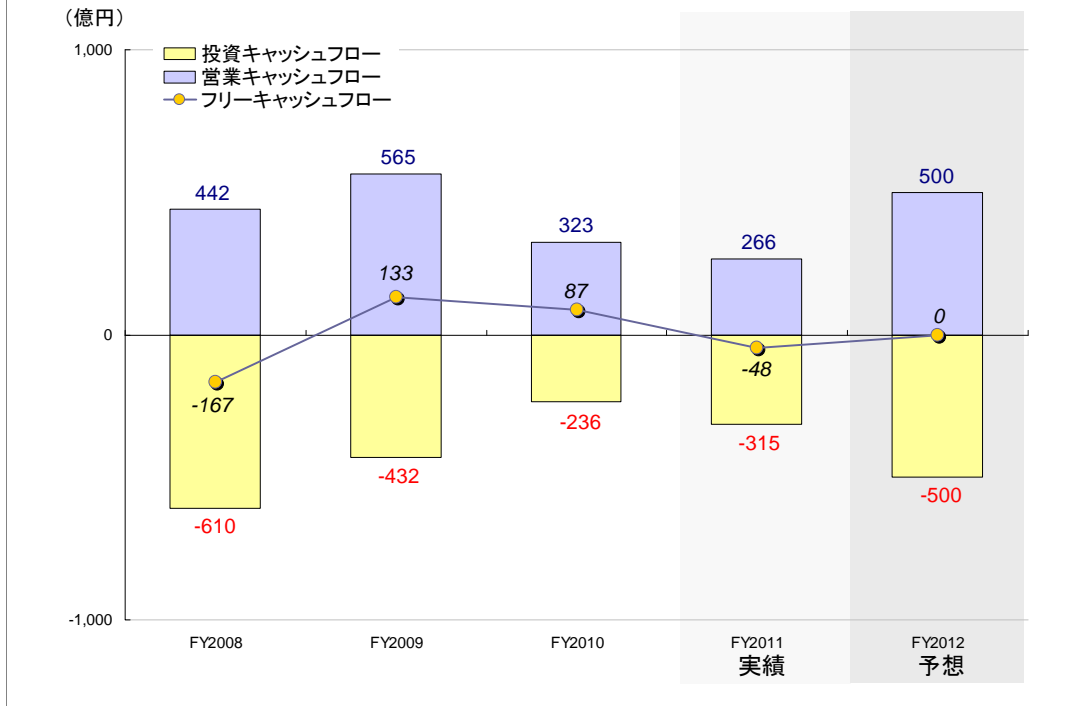


<セグメント別内訳>	FY2011実績		FY2012予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	295	227	430	310
デバイス精密機器	68	101	120	100
その他・調整額	25	46	40	50

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は 前回予想どおりの590億円を、
減価償却費については450億円から460億円に見直し。

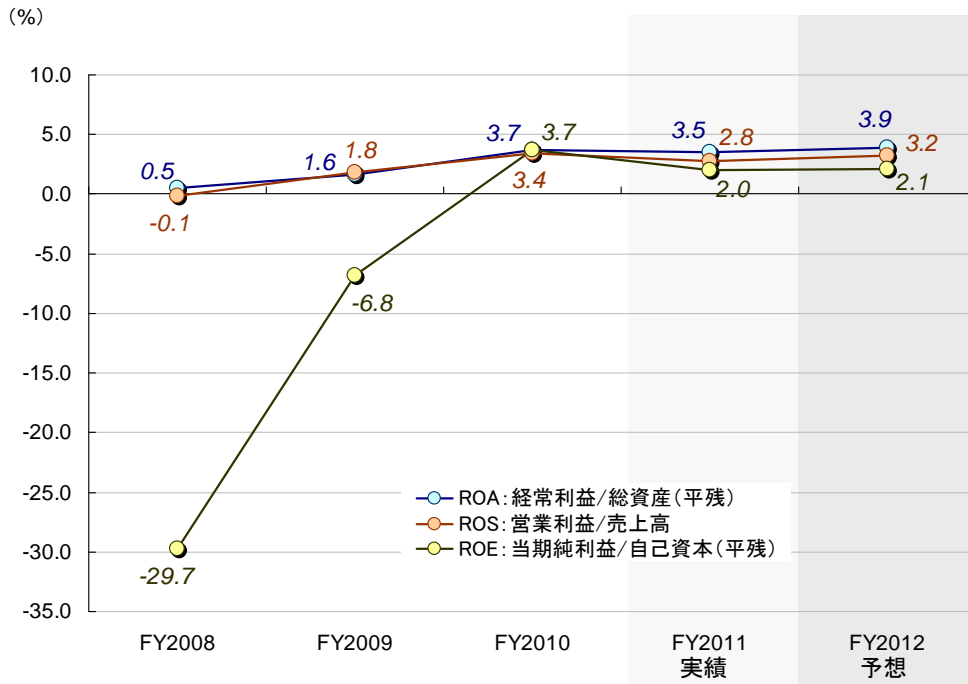
フリーキャッシュフロー予想



■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正にともなって、前回の100億円を予想したフリーキャッシュフローはゼロに見直し。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSは 3.2 %、 (営業利益率)

ROAは 3.9 %

ROEは 2.1 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION